

エンジニアパーク

Engineer



打田 克也 建設部門（鋼構造及びコンクリート） 勤務先：(株)ルーラルエンジニア
 TEL (0164)26-3411 E-mail : k_utida@rural.co.jp

私は、道南の黒松内町生まれで、昭和54年にこの業界に入りました。私の勤務する(株)ルーラルエンジニアは、主に農業土木に関する事業の調査、研究、計画、設計、施工管理等のコンサルタント業務を行っています。私は今の会社の前に、プレストレストコンクリート構造物を専門とする会社で橋の設計に携わっていたため、主に橋梁工等の構造物を中心に様々な農業土木施設の設計を行っています。

農業土木は、道路・河川・用排水施設等関わる範囲が広いことから、いろいろな土木施設の設計・施工管理を携わることができ、2つの会社を渡ったことが土木屋の私にとって多くの経験を持つことができました。

道内の農業土木施設も、更新の時期を迎えている構造物が多くなっていますが、事業に対する財源が厳しくなっている事情から既存ストックを補修補強して、有効利用をしようとする動きが増えつつあります。私が携わった河川の頭首工の改修設計等は、コンクリート構造物についての診断技術や補修・補強工法の検討等、新しい技術の習得を必要とし、また今後、このような設計業務が増えると考え、日々技術の研鑽に努めているところです。

これからは、コスト縮減・環境保全の観点からも既存ストックを活かせる新しい技術を身に付け、社会に貢献したいと思っています。



次号は、半澤幸博さん（農業部門）



紀本 則晃 農業部門（農業土木分野） 勤務先：函館開発建設部農業開発課

私は、北海道開発局入局以来、国営農業農村整備事業に携わる農業土木の中堅技術者として、排水路や用水路の工事を13年、かんがい排水事業の調査計画を8年経験してきました。仕事柄、発注や協議調整の他に設計が主な業務ですが、日頃より技術力不足を痛感させられることが多いため技術士挑戦は夢物語でした。ある日、良き先輩が挑戦を薦めてくれ背中を押してくれました。迷った挙げ句の一念発起でした。

これまでに技術力不足を思い知らされたことは数々ありますが、担当したコンクリートダムの実施設計では基礎的な地質理解力の不足と経験がものをいう世界であることを痛感させられました。もう一つは水路トンネルの崩落に際し緊急的に対応策を検討した時、技術的に相当高度な内容であったため殆どついて行けず悔しい思いをしました。

私の勤務する函館には「道南技術士協議会」があり、技術の研鑽に向けて定例的に勉強会を重ねています。先日、国営農業事業をアピールさせて戴く機会を戴き、30年前に事業完了した「大野かんがい排水事業」と新規事業・大野平野地区の調査進捗状況について現地研修の講師を務めさせて戴きました。

日頃、農業と余り関わりのない部門の方々でしたが非常に熱心に観て戴きました。地域の農業基盤を整備することは長い目で自国の食糧自給率を改善するのに役立つことも説明させていただきました。我々農業土木技術者はもっと農業の重要性をアピールする義務があるのではないかと思います。



次号は、猪口公志さん（水道部門）